

## (4) ティーム・ティーチング

ALT とのティーム・ティーチングにおいて、JTE (担任) が積極的に ALT とやりとりする姿は、児童生徒にとって英語学習者としての絶好のモデルとなります。目的、場面、状況等に応じて、新しい言語材料だけでなく既習表現も駆使しながら言語活動を行うために、ALT と JTE でスキットを用いて活動モデルを示した実践です。

実践学校 N中学校 (学級数：6 生徒数：194)  
 実践学年 1学年 (どの学年でも応用可能)  
 実践時期 6月上旬 (どの時期にも応用可能)  
 単元・題材名 NEW HORIZON 1年 Unit2 学校で  
 学習指導要領との関連 (3) 話すこと [やりとり] イ



○習得してほしい表現を導入する際は、生徒が「その英文を用いる場面、状況」や「使い方」を理解できるように、生徒の興味関心に応じて写真や絵を用いながら、ALT とのスキットを用いて活動モデルを示します。例えばN中学校では、Is this your dog?の言語材料を使った際には、JTE の飼い犬が迷子に

なった話から、ALT と JTE が一緒に犬を探すやり取りを行いました。対話の内容や画面に提示した画像、教師の表情から、どのようなやり取りをしているのか推測しながら聞けるようにしました。ALT と JTE が繰り返しやり取りをすることで、内容を理解したり、表現に着目して聞いたりする姿が見られました。また、迷子になった飼い犬について生徒に質問すると、JTE や ALT が使った表現を真似て対話に参加できた生徒もいました。場面や状況を明確にすることで、主体的に対話をしようとする姿につながることができました。

 **ここがポイント!**

- モデルスキットを用いて、言語活動を行う目的、場面、状況等を明確にすることで、内容や表現に着目しながら児童生徒が対話に参加できるようにしましょう。
- 児童生徒に願うやり取りの姿を具体的に構想して、スキットの内容に生かしましょう。

○ティーム・ティーチングでは複数の指導者がいるので、個々との関わりと全体の把握が一度にできるのも魅力です。モデルスキットで導入した表現を用いてALTが生徒とやり取りをする間、JTEは個々の生徒がどこまで理解できたか、またどれだけ表現に慣れ親しむことができているか把握するよう努めています。特に導入の段階では、英語で言いたいことが表現できないことが予想されます。この実践でも、ALTとのやり取りの中で、「“これ”ではなく“あの犬は”はどうやって言うの?」というつぶやきがあったので、JTEが



“What is ‘that’ in Japanese?”と問いかけたり、「あの茶色の犬」という表現に着目させ、that brown dogという表現を想起させたりしました。その後、生徒たちはこの表現の色の部分を代えてやり取りをすることができました。そのような姿が見られたとき、ALTが積極的に評価し、生徒が伝わった喜びを味わえるようにすることも大切にしています。

 **ここがポイント!**

□ティームティーチングでは、複数の目で児童生徒の学習状況を把握し、英語で言いたいことについて、既習表現や関連表現と結びつけて指導したり、評価したりしましょう。

**Lesson Plan**

Target sentences: Is this/that your ~? Yes, it is. / No, it's not.

○JTE→ALT ●ALT→JTE ◆ALT→Students ◇Students→JTE/ALT ◎Students→Students

PROCEDURE	JTE	ALT	STUDENTS
1. Greeting	(Answer with students)	◆ Good morning, everyone. How are you?	◇ Good morning, Ms Liz. I'm fine/good/tired... ◇ And you?
2. Model Skit ALTの写真をスクリーンに映す	○ Oh, Is this your magic wand? ○ So you are good.	● I'm good. I'm good because I have a magic wand. Look. ● Yes, it is. I love Harry Potter.	○○だ! 私も知ってる
カード lost = 迷子	○ I'm sad. My dog is lost. ○ Thank you.	● That's right. How are you, Ms Otsuki? ● Oh, no. Let's find your dog.	先生は悲しいみたいだ。 犬が迷子になったんだ。

何枚か犬の写真や絵を写す 生徒に質問する (interaction)	○No, it's not. (数回くり返し) ○Where's my dog?	●Is this your dog? (数回くり返し) ◆Is that your dog? (数回くり返し)	どれが先生の犬かな? ◇No, it's not.
3. Today's goal を設定する	Today's goal: "My dog is lost!" 英語で質問をして、自分の犬を見つけることができる		
4. Activity ワークシートに犬の絵を描き、描いた人を見つける	生徒の様子を見てフォローを入れながら、自分のワークシートが返ってくるように一緒に活動する。	◆Is this your dog?	◎Is this your dog? ◎Yes, it is./No, it's not.
5. シェアリング JTE や生徒のワークシートを映す	○Yes, it is. That's my dog. Thank you.	●Let's ask Ms Otsuki.	◇Is that your dog? 児童生徒が実際にやり取りをする場面です。

**コラム**

**「ALT とのティーム・ティーチング…どのように ALT の先生と打合せをすればいいのかわかりません。」**

小学校では、多くの先生方がもつ悩みかもしれません。ALT は担任の先生と打ち合わせをして授業に臨みたいと考えていますが、他校と兼務をしていて、打ち合わせの時間がなかなか取れないこともあります。また、空き時間がなかったり、英語による打ち合わせに不安を抱えたりしている小学校の先生方もいるのではないのでしょうか。

限られた時間の中で、効果的な打ち合わせを行うことができるように、次のような工夫をしている学校があります。

- ①ALT との打ち合わせの時間を日課表の中に位置付ける。
- ②各校に配布されている「Teaching Plan (授業で扱う教材を端的に示し、ALT に説明するためのフォーム)」を利用する。  
(H30年9月 外国語教育通信「Link Together」にて送付)
  - ◆互いの役割と書く活動のねらいを確認
  - ◆「何を」「どの場面で」「誰と」「どのようにするか」を端的に確認
- ③ALT との打合せ専用ノートを職員室の ALT 机上に用意する。
- ④メール等を利用して、空いている時間に連絡を取り合う。

**まとめ**

スキットを用いて活動モデルを示す際には、対話のパターンを示すだけでなく、児童生徒がコミュニケーションを行う目的、場面、状況等を理解できるようにしたり、JTE や ALT の役割を明確にして児童生徒を指導・支援、評価したりしましょう。